

# NEWS LETTER



2023年4月発行 一般社団法人 日本口腔衛生学会  
ニュースレター第9号

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内  
TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341

E-mail: [gakkai37@kokuhoken.or.jp](mailto:gakkai37@kokuhoken.or.jp) HP: <http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/>

発行人 天野敦雄 編集 広報委員会



## CONTENTS

- 第72回 日本口腔衛生学会・学術大会開催のご案内
- 各種お知らせ
- 若手会員紹介リレー③
- 広報委員会より (編集後記)

## 第72回 日本口腔衛生学会・学術大会開催のご案内

### 大会長挨拶

天野敦雄 (大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座予防歯科学分野)



いよいよ第72回日本口腔衛生学会学術大会が開催されます。5月19日(金)～21日(日)の3日間、大阪国際交流センターで皆様をお待ちします。

本学術大会のテーマは“令和の健口戦略「防ぎ守る」”です。20世紀の「削る・詰める」に「防ぎ・守る」を加えた歯科医療を令和のスタンダードとするために、歯科の疾患予防・健口管理の現状を再考し、近未来の歯科医療の姿を考えてみたいと思います。

一般講演(口演, ポスター)には国内外から120の演題が寄せられました。参加者の皆様の活発なご討議が楽しみです。

21日の基調講演では令和の予防歯科臨床が語られます。大阪大学・林美加子教授の「削らないう蝕治療」のお話が興味深いです。令和の歯科医療には歯科衛生士の活躍が欠かせません。売れっ子フリーランスの谷垣裕美子先生に令和の歯科衛生士の姿をお見せいただきます。加えて、大会長の私と実行委員長・久保庭も登壇させていただき、令和の病因論をご披露いたします。

20日、21日に開かれるシンポジウムは12のラインナップです。8020運動から未来を見据える、これからの歯科健診の姿、基礎研究からの発信、歯科保健行動の戦略モデル、ナッジ理論の応用、産業保健での歯科の展開、歯科口腔保健医療の政策、口腔感染症を考える、NCDs、フッ化物、タバコ対策、企業名を冠した企業シンポジウム、どれもワクワク、聞き逃しは後悔必定です。

19日は理事会、社員総会、認定研修会、5つのミニシンポジウムに加えて日本歯科医学会の住友雅人会長との懇話会があります。住友先生のお話には必ず笑う所がありますのでお楽しみに。

20日は日韓国際交流招待講演に慶北大学のChoi教授(大阪大学特任教授)、ソウル大学のJin教授(韓国予防歯科学会・理事長)にご登壇いただきます。また、学会賞受賞口演、ランチョンセミナーもお楽しみください。

21日は日本学術会議の市民公開シンポジウムが開かれます。テーマは加熱式タバコ。山下喜久教授が総合司会を務められます。ダイキン工業シンポジウムもあります。この日もお昼ごはんはランチョンセミナーです。

4年ぶりの現地開催、相まみえる学術大会を大阪の文化、歴史、そして食とともに大いに楽しんで下さい。皆様の安全を第一に優先して大会の準備・運営を行ってまいります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。参加登録はお済みですか？

第72回

# 日本口腔衛生学会・学術大会シンポジウム

## シンポジウム 1

### 健康寿命の延伸から Healthy Ageing を達成するために — 8020 運動の経験をアジアに —

座長：小川祐司（国際交流委員会委員長／新潟大学大学院医歯学総合研究科）



本シンポジウムは、「健康寿命の延伸から Healthy Ageing を達成するために —8020 運動の経験をアジアに—」と題し、日本の 8020 運動をいかにアジア諸国に伝え活かしていけるか、その道筋を考えることをねらいとしています。8020 運動を推進した要因や障壁などの変遷をたどり、学際的エビデンスとの論理的整合性を検証して 8020 運動を系統的に可視化し、歯科保健戦略の観点からアジア諸国で 8020 運動をどのように展開するかについて、3 人の演者に登壇いただき議論を進めていきます。

大久保満男先生には、8020 運動が国民運動として定着していった経緯、8020 推進財団設立の目的、歯科口腔保健法の制定が 8020 運動の推進にもたらした意義について、

竹原祥子先生には、8020 運動推進を後押しした要因や障壁、8020 運動の変遷とエビデンスとの論理的整合性、8020 運動に関する政策分析について、

深井稜博先生には、8020 運動を事例としてアジア諸国に発信・展開していくためのこれまでの取り組みと今後の展望について、

それぞれの専門的立場から論じていただく予定です。

## シンポジウム 2

### 歯周疾患検診等を含めた歯科健診の課題と今後

座長：葭原明弘（新潟大学大学院医歯学総合研究科）

三宅達郎（大阪歯科大学口腔衛生学講座）



成人の歯科健診として制度化されている歯周疾患検診の受診率は、平成 30 年度で約 5%にとどまっており、国民が求めている歯科健診とは言いがたいのが現状であります。それどころか、「何を目的に成人の歯科健診を実施するのか」、このことすら、学会内でコンセンサスが得られていない状況にあると感じています。しかし、令和 4 年、政府の骨太方針に「国民皆歯科健診」という文言が記載されるとともに、PHR（Personal Health Record）の推進が国策として急ピッチに進められており、成人の歯科健診のあり方を明確にすることは急務であります。

そこで、あり方委員会と学術委員会では、歯科健診の現状と問題点を整理し、今後の歯科健診の方向性を検討するため、本シンポジウムを企画しました。

本シンポジウムでは、まず、これからの日本口腔衛生学会を牽引していただく 4 名のシンポジストから、さまざまな試みやお考えについてご講演いただきます。そのあと、今後の歯科健診のあるべき姿を含めてその設計等（健

診目的、検査項目、データ管理など)について、シンポジストだけでなく、参加者のみなさんと一緒に議論してまいりたいと考えております。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

### シンポジウム 3

## 令和の健口戦略；基礎研究からの発信！！

座長：片岡宏介（徳島大学大学院医歯薬学研究所）

川戸貴行（日本大学歯学部衛生学講座）



前々回から始まった本シンポジウム、「口腔衛生学の専門性とは何か」、「進取の気風で切り拓く口腔衛生の未来」というテーマのもと、基礎・疫学・臨床研究者が集う当学会の特色をそのままに、これらの研究領域の融合シンポジウムを行ってまいりました。残念ながら COVID-19 拡大防止のため 2 年連続 Web 開催の本シンポジウムでしたが.....

今大会のテーマは、「令和の健口戦略「防ぎ守る」」です。この度は、6名の基礎研究者をシンポジストとして招き、臨床・疫学研究者の方々にはフロアでコメンテーターとして参加していただく face to face の形式としました。基礎研究者からご自身の研究について、若手、また臨床・疫学研究者の方々にもわかりやすく語っていただき、令和の健口戦略について皆で討論したいと思います。異なる領域の研究者をお互い知り、その輪を広げることで、次の機会での基礎、臨床、疫学融合シンポジウム開催、さらには近い将来に学際的な連携で大型研究費の獲得や社会貢献につながるシンポジウムになればと考えます。

異なる領域の研究であることから、ともしれば興味・関心を示しにくく、希薄な状況になりがちですが、本学会の研究者同士、また大学間の絆を深め、何よりも本会会員としての連帯感を体感できるシンポジウムになることを期待しています。

### シンポジウム 4

## 歯科保健行動を促す戦略を考える

～こんなモデルをつくってみました～

座長：安細敏弘（九州歯科大学地域健康開発歯学分野）



昨年の本学会シンポジウム第 2 弾として、より具体的な歯科保健推進アプローチとして実現可能なモデルの構築を提案し、議論を深めたいと考えています。

植野正之先生（埼玉県立大学保健医療福祉学部）からは英国の S. Michie らが提唱した Behaviour Change Wheel (BCW) という理論的フレームワークを用いて歯科保健行動変容を促すアプローチに応用する場合の手順について、続いて、馬殿 恵先生（大阪大学内分泌・代謝内科学）からは「調理指導を含めた健康的な生活習慣への行動変容アプローチの開発と検証」という切り口で、近年、ハーバード大学の研究者が中心となって開発された参加型プログラム「Teaching Kitchen」について、さらに山根承子先生（パパラカ研究所）からは、昨今話題になっている「ナッジ」をテーマに歯科保健行動の習慣化につながるナッジとその効果について深掘りしていただく予定です。企業の実践例として滝 沙織先生（ライオン株式会社）に熊本県合志市との取り組みや企業のウェルビーイング経営を支援するサービスを中心にご紹介いただく予定にしています。

## シンポジウム 5

# 今がチャンス 産業保健での歯科保健の新たな展開 — 歯科が期待される役割 —

座長：尾崎哲則（日本大学歯学部）  
安田恵理子（大阪歯科大学口腔衛生学講座）



産業保健と歯科の法的根拠のあるかわりには、特殊健診と旧 THP の保健指導における口腔保健など非常に限られたものでした。2018 年に特殊健診の標準的な質問項目に歯科関連項目が入り、さらに後期高齢者医療制度への支援金に関わるインセンティブとして歯科保健活動が入るなど、医療保険の保険者を対象に、いくつかの改正がなされました。さらに、2020 年以降、THP 指針の改正や産業保健における歯科関連の通達等がなされ、産業看護師職や産業医の歯科への関心が非常に高まっています。この背景には、いわゆる定年延長など労働者の高齢化や医療費適正化などの問題があり、多職種連携で、健康づくりを構築していくことが求められてきています。

また、歯科保健は全ライフステージに関わっていますが、働く世代の歯科保健は、多くの課題が山積しています。産業保健の現場で「歯科」が期待される役割について、基本的な事柄を含め、多くの歯科関係者に理解いただけるよう企画いたしました。

このシンポジウムが、産業保健における健康管理あるいは、事業場や他職種、国の考え方、取組等の事項に共通認識を持っていただき、「歯科」として求められる産業保健活動へと繋がることを願います。

## シンポジウム 6

# 園・学校でのフッ化物洗口の実際と成人までのう蝕予防のインパクト

座長：相田 潤（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科健康推進歯学分野）



近年のフッ化物応用を取り巻く状況の変化には目を見張るものがあります。厚生労働省は令和 2 年度に「口腔保健に関する予防強化推進モデル事業」として、1970 年代から開始された新潟県 弥彦村におけるフッ化物洗口事業を経験した人たちが最大で 50 歳代になった時点でのう蝕有病状況に関する調査を行いました。さらに令和 3 年度には厚生労働省の補助金で「歯科口腔保健の推進に資するう蝕予防のための手法に関する研究」が実施され、フッ化物洗口マニュアル（2022 年版）が出され、新たなフッ化物洗口の推進に関する文章も発出されました。これらにより、一層のフッ化物応用の推進および、幅広い世代におけるう蝕とその健康格差の減少が期待されます。このシンポジウムでは、新潟大学の濃野 要教授、宮崎県の森木大輔口腔保健支援センター長、NPO 法人日本フッ化物むし歯予防協会の小林清吾理事、東京歯科大学の石塚洋一准教授という大学から行政、NPO の幅広い専門家をお迎えして、近年アップデートされているフッ化物応用についてご紹介します。

## シンポジウム 7

# 歯科口腔保健医療のエビデンスと政策を考える

座長：三宅達郎（大阪歯科大学口腔衛生学講座）



政府は、骨太の方針において、多くの歯科保健医療に関する内容を盛り込み、歯科保健医療政策を重視している姿勢を示しています。日本口腔衛生学会は、国の歯科保健医療政策に最も貢献できる学会の一つであり、その社会的使命は大きいものがあると考えております。しかし、政策実現のためには、国民や関係者が納得する高いエビデンスが必要であり、その創出は決して容易なものではありません。

そこで、「政策に資する研究とは何か」という視点から、歯科口腔保健医療のエビデンスと政策について検討するシンポジウムを企画いたしました。

本シンポジウムでは、まず、和田康志先生から厚生労働省の立場からお話しをいただいたあと、相田 潤先生をはじめ竹内研時先生、石丸美穂先生、松山祐輔先生、木野志保先生といった次代の日本口腔衛生学会を担う新進気鋭の先生方から、さまざまな新しい手法によるエビデンスの創出の試みをご紹介します。その後のディスカッションでは、どうすれば、より多くの歯学研究が、政策として実社会に応用されるようになるのか、参加者のみなさんと一緒に、考えてまいりたいと思います。

多くの方々のご参加をお待ちしております。

## シンポジウム 8

# 口腔感染症を考える

～周術期の合併症予防，高齢者肺炎予防，顎骨壊死予防のこれまでとこれから～

座長：梅田正博（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔腫瘍治療学）  
五月女さき子（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔保健学）



口腔の健康はう蝕や歯周病の予防だけではなく、高齢者の誤嚥性肺炎の予防のほか、糖尿病・虚血性心疾患・慢性関節リウマチ・低体重児出産・感染性心内膜炎などさまざまな疾患の治療に役立つことが知られています。また良好な口腔環境を維持することによりがん治療をはじめとする周術期の有害事象のリスクが減少することも明らかとなってきています。これまで口腔感染症予防法としては、感染源と考えられてきたプラークや歯周ポケット内の細菌を除去することが中心に行われていましたが、高齢者や周術期患者の誤嚥性肺炎の予防法として、歯に強固に付着しているプラークを除去することははたして意義のあることでしょうか。プラークが誤嚥性肺炎の原因であるならば無菌顎者の肺炎リスクは低くなるはずですが、実際には無菌顎者のほうが肺炎発症率は高いとの報告もあります。

そこで本シンポジウムでは、病院における高齢者や周術期患者、要介護高齢者の唾液中細菌数に関連する因子や口腔管理と誤嚥性肺炎予防法について、さらに薬剤関連顎骨壊死や放射線性顎骨壊死予防のための口腔管理について発表していただき、現在の課題についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。

## シンポジウム 9

# 令和の歯科タバコ対策のリノベーション

—健康日本 21（第三次）、国民皆歯科健診に向けて

座長：尾崎哲則（日本大学歯学部）



禁煙推進委員会提案シンポジウムでは、昨年の 2022 年に「歯科領域の基礎・臨床・公衆衛生の最近のトピックス」を紹介し、さらにミニシンポジウムで「新型タバコ、特に加熱式タバコに関する注意喚起」の話題提供を行いました。

今年のシンポジウムでは、改正健康増進法の完全施行と加熱式タバコ大流行の兆しを背景に、日本のタバコ対策の変化を見据え、歯科専門職の参画の在り方を模索することを目的として開催します。

加熱式タバコなどの新型タバコの流行による新しいリスクへの対応について、低曝露のう蝕リスクを例に解説します。続いて、行動変容ステージ理論から WHO が推奨する新たな禁煙支援法への移行と禁煙を促す歯科専門家の重要な役割を解説します。さらに、ニュージーランドでの禁煙法施行による生涯にわたりタバコを使用しない世代づくりの国家の取組目標を紹介します。最後に、学会員に奨めるタバコ産業と関わらない背景に関して、日本疫学会が行っているタバコ産業との関係に関する先進的な取組について、国立がん研究センターの片野田耕太先生に解説いただきます。

その後、「加熱式タバコへの対応」と「タバコ産業との関わりへの対応」を中心に、皆さんと議論を進めていく予定です。

## シンポジウム 10

# ナッジ理論を歯科保健指導に応用してみよう

座長：泉 繭依（九州歯科大学歯学部口腔保健学科）

西村瑠美（広島大学大学院医系科学研究科口腔保健疫学研究室）



ナッジ（nudge）理論とは、2017年にノーベル経済学賞を受賞したアメリカのシカゴ大学の行動経済学者リチャード・セイラー教授が提唱した行動理論です。

ナッジとは、「注意をひくために肘で軽くそっと突く、軽く背中を押す」といった意味があり、ナッジ理論を用いることで、行動を制限したり強制したりせず、無意識に人々が望ましい行動を選択するように誘導することが可能になるとされています。企業をはじめとしたさまざまな実社会の中で、この新しい行動変容アプローチが実践され始めていますが、歯科保健指導ではあまり用いられていないのが現状です。誰もが持つ心理的バイアスは、無意識な状態で本能的に発生し、直感的に都合の良い情報へと思考を偏らせてしまいます。この時、少しだけ後押しすれば行動が変化する人も多いことが行動経済学によって解明されています。今回は、「ナッジ理論を歯科保健指導に応用してみよう」と題し、3人の先生方にご登壇いただいて、令和の健口戦略「防ぎ守る」のために、どのようにナッジ理論を展開できるかについて歯科医療関係者で議論を行いたいと考えております。

## 生活習慣病対策としての歯科口腔保健

～第4期特定健診・特定保健指導に向けて～

座長：安藤雄一（国立保健医療科学院生涯健康研究部）

深井穂博（深井歯科医院・深井保健科学研究所）



本学会の地域口腔保健委員会では、昨年度の学術大会で「生活習慣病対策と歯科口腔保健」と題するシンポジウムを行い、関連する内容の提言も作成しました。これを受け、今年度は特定健診・特定保健指導に焦点を絞った内容のシンポジウムを企画しました。

特定健診・特定保健指導は、医療制度改革の一環として2008年度から開始された我が国の中核的な生活習慣病対策で、現在、第4期（2024～2029年度）について検討中です。第3期（2018～2023年度）から「標準的な質問票」に咀嚼に関する質問が加わりましたが、本シンポジウムでは、これに関連した内容として4名のシンポジストから御報告いただきます。

## ① 谷 直道（日本予防医学協会）

「標準的な質問票における咀嚼に関する質問とデータヘルス」

## ② 堀江 博（奈良県 福祉医療部医療政策局 健康推進課）

「奈良県における特定健診受診者に対する歯科受診勧奨システムの構築① ～県行政として～」

## ③ 大橋正和（奈良県歯科医師会）

「奈良県における特定健診受診者に対する歯科受診勧奨システムの構築② ～県歯科医師会として～」

## ④ 富永一道（島根県歯科医師会）

「咀嚼機能を視点としたメタボリック症候群とサルコペニア・フレイル対策」

## ダイキン工業株式会社シンポジウム

## 歯科診療空間における安全衛生と医療の質の両立

座長：関根伸一（大手前短期大学）



歯科診療空間は国民の口腔保健を維持増進させる場であると同時に、ウイルス・細菌等を含む粉塵・エアロゾルによる被ばくを体験する場でもあります。このようなアンビバレントな空間において安全衛生と医療の質を両立するには、空気環境の質の担保が前提となります。また、歯科診療空間に関与するすべての人のウェルネスの達成を考えると、それは従来の医療従事者と患者だけでなく、家族や付き添い者、業者、事務職員、（手話・要約筆記・外国語）通訳者、ガイドヘルパー、施設看護師なども対象となります。

2023年2月27日時点で、WHO (<https://covid19.who.int/>) は世界におけるCOVID-19による死者数を685万人、厚生労働省 (<https://covid19.mhlw.go.jp/>) は日本における死者数を72,320人と報告しています。このような現状で、日本口腔衛生学会は2020年5月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策本部および作業部会を設置し、国民の口腔保健の持続的な維持増進を牽引しています。シンポジウムでは歯科診療空間において望ましい空気環境の情報（市中感染状況・環境メタゲノム）、センサーを用いた歯科診療室における戦略的な環境管理と健康管理、病院歯科での応用の可能性までを示していきます。

## 若手会員紹介リレー③



古田美智子（九州大学）2006年東北大学歯学部卒業，2011年岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了

→入江浩一郎先生（神奈川歯科大学）2006年岡山大学歯学部卒業，2011年岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了

今回の「若手会員紹介リレー」は九州大学の古田美智子が担当し，神奈川歯科大学歯学部健康科学講座准教授の入江浩一郎先生を紹介させていただきます。入江先生は，若手会員の中では唯一だと思われていますが，長期の海外留学を2回経験されています。2012～2013年に米国ワシントン大学と2017～2019年に米国コロンビア大学に留学し，いずれの大学でも免疫学的手法を駆使して常在菌と宿主（口腔，腸管）との関係についての研究をされていました。特に，常在菌と腸管の関係についての研究成果はScience（2019）で報告されています。この論文では，腸内常在菌が腸管上皮細胞を介して抗原を獲得する経路を初めて明らかにしており，常在菌と宿主の相互作用のメカニズムを解明しています。留学から帰国後は，基礎研究だけではなく疫学研究にも携わり，歯周病の発症リスクが職種で異なることをJournal of Epidemiology（2018）に報告され，その研究結果はメディアにも取り上げられました。職域での歯科口腔保健対策を考える上で，ぜひ一読していただきたい論文だと思われています。それでは，盛り上げ上手な入江先生にバトンをつながせていただきます。入江先生，「若手会員紹介リレー」を盛り上げてください！

## 各種お知らせ

各種事業などについてご案内申し上げます。  
詳細は，学会誌第73巻第1号をご参照ください。

### 学会認定医申請・更新（2023年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は，一般社団法人日本口腔衛生学会認定医制度規則・施行細則を参照のうえ，ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（土）まで（消印有効））

### 学会専門医申請（2023年度分）について

資格を満たすと思われる方は，一般社団法人日本口腔衛生学会専門医制度規則・施行細則を参照のうえ，ふるって申請してください（申請期限：9月30日（土）まで（消印有効））

### 学会指導医申請（2023年度分）について

資格を満たすと思われる方は，一般社団法人日本口腔衛生学会指導医制度規則・施行細則を参照のうえ，ふるって申請してください（申請期限：9月30日（土）まで（消印有効））

### 学会認定地域口腔保健実践者の申請（2023年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は，一般社団法人日本口腔衛生学会認定地域口腔保健実践者制度規則・施行細則を参照のうえ，ふるって申請してください（申請期限：9月30日（土）まで（消印有効））

### 認定歯科衛生士専門審査制度の申請・更新（2023年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は，一般社団法人日本口腔衛生学会認定歯科衛生士専門審査制度規則・施行細則を参照のうえ，ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（土）まで（消印有効））

## 歯科衛生士委員会企画シンポジウム開催について

日時：2023年5月21日（日）13：00～14：30

場所：大阪国際交流センター2階B会場（小ホール）

内容：テーマ「ナッジ理論を歯科保健指導に応用してみよう」

座長：西村瑠美，泉 繭依 演者：尾崎哲則，後藤理絵，野口有紀

## 第28回一般社団法人日本口腔衛生学会認定研修会

日時：2023年5月19日（金）15：00～17：00

場所：大阪国際交流センター2階B会場（小ホール）

内容：1. 認定制度新規申請・更新上の注意

2. 究極のオーラルフレイル対策～地域高齢者の低栄養への社会的処方～ 講師：木村年秀

3. 今後の産業保健・口腔保健の課題と展望 講師：上條英之

## 第15回一般社団法人日本口腔衛生学会指導医研修会

日時：2023年5月20日（土）12：30～13：00

場所：大阪国際交流センター2階D会場（会議室A・B）

内容：1. 指導医に期待すること（仮） 講師：三宅達郎

2. 認定医・専門医・指導医制度について（仮） 講師：嶋崎義浩

## 編集後記 広報委員会より

今回お届けするニュースレター9号は、広報委員の小松崎 明先生，泉福英信先生，小原由紀先生，大島の4名で担当いたしました。

本号は、第72回学術大会の直前号のため、シンポジウムなどの企画に焦点を当てご案内させていただきました。また、若手会員紹介リレーでは古田美智子先生にご寄稿いただき、入江浩一郎先生にバトンをつないでいただきました。

過去3回の学術大会は、COVID-19感染拡大により現地会場での開催はまなりませんでした。今度の第72回学術大会は4年ぶりの現地開催となり、皆様にお目にかかれることを心から楽しみにしております。

本ニュースレターは、会員の皆様はもちろんのこと、より多くの人々に本学会の取り組みを紹介するためのツールとして、ご利用いただけることを願っております。そのため、本ニュースレターのメール送信や印刷物の配布などはご自由に行ってください。また、ご意見やご要望などがございましたら、お気軽にご連絡ください。

会員の皆様におかれましては、引き続きのご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

（大島克郎）